

【ラブストーリーは突然に】

介護職・小野田真由美

心に響いた言葉を、1日に1つ日記帳に書き留める。10年以上続く、私の日課です。でも、今日はどうしましょう、、聡子さんの金言の数々に胸を撃たれ、1つに絞ることができません。“わっつえーカー！”な時間を、ありがとうございました。

この春飛び込んだ介護の世界は、戸惑いばかり。でも、確かに思うことがあります。今の私にできる「手当て」、目の前のおばあちゃんたちの背中や手をさすると伝わってくる温度やぬくもりが、愛しくて尊い。聡子さんは今日、「そんな気持ちを、介護の仕事への“パスポート”にして良いよ」と言ってくださったように感じています。

介護の最後は、人生の最期を看取ること。利用者様たちのイキカタに寄り添って支え、地域の一員として見送ること。そのために、価値観・想像力を超えた脳みその向こう側に目を向けて、介護をクリエイティブな仕事にする。なるほど！こんな風に取り組めたら、私の人生も豊かになっていく予感がします。

聡子さんは、「いろ葉」で出会った数々のラブストーリーを、まるでラブレターのよう
に代読されていましたね。大きな大根を抱えた道子さんの写真はお顔が隠れていました
が、私には誇らしげな表情が見えて涙が出てきました。普（ふ）通の暮（く）らしを幸
（し）せにする「福祉」の物語が、ホラーや笑点にならないように。その人の人生に関わ
る覚悟を持ち、お互い“右肩上がりで楽しい毎日”を送れるように。飄々と、この仕事を
楽しんでみます。

お話を聞いているうちに、うちのおばあちゃんたちの顔が次々と浮かんで早く会いたく
なりました。これって、ラブストーリーの始まりですね。

森田さんのお話は、、午後6時、ゼミを聞き始めて次々と出てくる「愛人」「愛
人」・・・??やはり、このキーワードが、頭からこびりついて離れません。
あ、、落語の落ちのようになってしまいました、すみません。

日本の医療を変える原型をお作りになった素晴らしい取り組みについては、これから学
ばせていただきます。

お二人との“えにし”に、心からの感謝を込めて。まずは、“誘拐”を試みてみます。